

Crown English Communication II, p. 51.

Lesson 4

Crossing the Border —Médecins sans Frontières—

Dr. Kanto Tomoko joined MSF in 1993. She was the first Japanese to work in the ⁽¹⁾field with this international volunteer group. Here she talks about her experience.

—1

After working for about eight years as a doctor in Japan, I went to Switzerland for further study. ⁽²⁾It was there that I joined *Médecins sans Frontières* (MSF), “Doctors Without Borders,” an NGO established in France in 1971. MSF helps people all over the world who are sick or injured as a result of war and disaster, no matter what their ⁽³⁾race, religion, or politics is.

I had been thinking about how I might be of some ⁽⁴⁾help to others as a doctor. I wanted to see different cultures and places. I had read about MSF and I had friends who had donated money. I sent a letter to an MSF office in Paris saying that I wished to join the organization. They said yes and I was sent to the Madhu ⁽⁵⁾refugee camp in Sri Lanka, where fighting was going on.

Lesson 4—Lead

(1) field v in the field, p. 708.

in the field (1) 畑[野原]で. (2) 現場で, 実地で; 出先で. (3) 戦場で. (4) 競技に参加して. (5) 専門領域で.

- p. 50 の貫戸医師の写真から彼女の仕事を類推させて, 成句義の(2)「現場で, 実地で; 出先で」を意味することを確認させる。
- 成句で使われている field の意味は名詞の語義 4 から来ているのでチェックさせる。

4 [[the ~]] 実地(の場); 現場, 出先; [[形容詞的に]] 実地[現場]の ▶ *field study* 実地研究.

Lesson 4—Section 1

(2) it π 9, p. 1031.

9 [[it is ... (that) [who] ...]] (I 強調構文; ↓ [文法]) ▶ It is Jeff who [that] revealed the secret. その秘密を漏らしたのは(ほかの誰でもない)ジェフです (I コーパス) 人を強調する場合は who の方が普通) / It wasn't Larry who [that, (かた) whom] Ally phoned last night. アリーが昨夜電話したのはラリーではなかった / It was because of my carelessness [because I was careless] (that) I lost my key. 私が鍵をなくしたのは(ほかでもない)自分が不注意だったからです / It was in Paris [May] (that) he died. 彼が亡くなったのは(ほかの場所[時]ではなく)パリ[5月]でした (I それぞれ that の代わりに where [when] とは通例しない).

[文法のポイント] 強調構文

文の中で強調したい主語・目的語・副詞表現などの要素を it is と that [who] の間にはさんで強調した形。強調する要素が人で主語・目的語の場合は who, that, 物・事や副詞(句[節])の場合は that を用いる。物・事や副詞(句[節])を強調する場合, that は省略されることがある

- it のような多くの用法がある語を調べ, 辞書にある情報を活用する方法を身につけさせたい。教科書本文では It was there that ... と it で始まり be 動詞が続く, 副詞の there+that 節となっていることを確かめさせる。語義番号直後の文型表示が「it is」で始まっている語義のうち, 形容詞や名詞が続くものはほかにもあるが, 副詞を取ることができるものは語義 9 の {it is ... (that) [who] ...} しかないことを確認させる。文型表示では be 動詞は現在形(ここでは is)になっていることも確かめさせるとよい。
- (I 強調構文; ↓ [文法]) という注記から, この文型は強調構文であることをチェックさせ, さらに強調構文とはどのようなものかを参照先の [文法のポイント] コラムで確認させる。教科書本文では場所を表す副詞である there を強調していることを理解させる。
- 辞書用例を使って, 強調構文の特徴を把握させる。特に第 4 用例には場所を表す句(in Paris)が来ているので参照させて, 教科書本文は「私が国境なき医師団に参加したのはそこでだった」という意味になることを確認させる。

(3) race² v 1, p. 1544.

race² /reis/ [＜フランス；同族]
(形) racial
— 図 (④) ~s /-iz/) 1 人種: [形容詞的に] 人種の
▶ people of all races あらゆる人種の人々 / a mixed-
race marriage 異人種間の結婚 / discrimination
against race ≡ race discrimination 人種差別.

類義 race と nation, people, tribe
race は同じ皮膚の色・肉体的特徴を持つ集団で, Caucasian, Negroid, Mongolian, Polynesian に大別されるが, 近年ではこの語は people(s) や community で代用する場合も多い. nation は歴史・言語を共有し同一地域に生活する集団. people は一国の国民などをさし, race や nation の意で用いられる. tribe は nation より小規模で, 風俗・言語を共有し, しばしば伝統的な生活様式に従っている集団 (→ethnic group).

- race の名詞を調べさせる。同じ綴りで語源の違う語がある場合, 見出し語の右上に番号を付けて別々に記述されているのをチェックさせ, 教科書本文では「宗教(religion)」や「政治(politics)」という語と並んで用いられていることから race²であることを確かめさせる。

race¹ /reis/ [「走ること」>「競走」]
(名・形) racing
— 図 (④) ~s /-iz/) 1 «…間の/…との» 競走, レース
«between/against, with» (1 「100メートル競走」は the 100-meter dash という) ▶ win [lose] a race 競走に勝

- 語義 1 には可算・不可算の両用法があることをチェックさせる。辞書の第 1 用例は「あらゆる人種(all races)」と人種の種類を意識しているのでX, 第 3 用例は「人種差別(discrimination against race)」と人種というものを 1 つの概念と考えているのでYであることを理解させる。教科書本文では religion, politics という概念を表す不可算名詞と並んで用いられていることから, 不可算用法であることを確認させる。
- 「人種・民族・国民」などの意味を持つ語をまとめて解説した P コラムがあるので, ついでに確認させておくのもよい。

(4) help v 2, p. 912.

2 役に立つこと ▶ The instructions [weren't much [were a lot of] help. 説明書は大して役に立たなかった[大いに役立った]/Did you find the advice any help? 助言はいくらでもお役に立ちましたか/be of great [no] help 大いに役に立つ[役に立たない].

- 辞書にはよく使われるチャンクが例文として出ているため, 用例から必要な情報を採らせるのも効果的。教科書本文と同じく

be of ... help という形の例文が語義 2 の最後の用例として出ているのでチェックさせる。その訳文を参照させ, ここでは「いくらかの役に立つ」という意味になることを確認させる。

- この表現に使われている of の用法が of と 7a (p. 1329)に出ているのでチェックさせるのもよい。語義番号のすぐ後には{ }を使ってどのような場面で使われるかが示されている。{かたく・主に書}という表示から, この表現が格式ばったもので, 主に書き言葉で使われることを確かめさせる。さらに a の後半の文型表示{be of A}の!εで示された注記には, この形で教科書本文のように help が使われることや, some を伴うことがあると説明されているので確認させる。

【性質・特徴】 7 (かたく・主に書) a [A of B] B という性質を持つ A (1 B は主に色・年齢・大きさ・性質などを示す 図); [be of A] A という性質がある (1 図) A は主に concern, help, importance, interest, use, value など; しばしば any, great, little, much, no, particular, some などの修飾語を伴う) ▶ a boy of five (years [かたく] years of age) 5 歳の少年 (≡ a five-year-old boy; → old 3 語法) / a daughter (of) your age 君くらいの年ごろの娘 / He was of medium height and medium build. 彼は中肉中背だった / a man of action [many talents] 行動的な[才能豊かな]男 / That graph will be of interest to many people. そのグラフは多くの人に興味を持ってもらえるだろう / Money is of no importance. お金は重要ではない (≡ よりくだけて) Money is not important.) / All the blocks must be (of) the same color. すべてのブロックは同じ色でなくてはならない (1 図) of は省略する方が普通) / John is more of a fool than I thought. ジョンは思っていたよりばかなやつだ. b [材質] …の, …でできた ▶ a plate (made) of glass ガラス(製)の皿 / The case was of crocodile skin. 入れ物はワニ革だった.

(5) refugee v, p. 1577.

ref-u-gee* /rɛfjuːdʒi:/ (1 強勢は第 3 音節) [→refuge]
— 図 (④) ~s /-z/) 1 (戦争・災害などによる) 難民, 避難民;
亡命者 ▶ political refugees from Vietnam ベトナムからの政治難民 / a refugee camp 難民キャンプ.

- 見出し語・発音記号の横にある(1 強勢は第 3 音節)という注記をチェックさせる。
- 教科書本文と同じ refugee camp が辞書の第 2 用例として出ているので確認させる。太字用例であることから, よく使われる結びつきであることに注意させる。

Crown English Communication II, p. 52.

—2

At Madhu there were 28,000 refugees, and
(1)yet there was only one small hospital, where we
had only two nurses, two Tamil doctors,
interpreters, and health workers. We had only
the simplest medical (2)equipment to work with.
There were times when we felt sad because we
had to treat so many people with old equipment.

We started at 9 a.m. and treated about 150
people each day. They spoke Tamil. We asked
them simple questions and decided what to do.
In the afternoon, we treated people in our eight
beds, usually pregnant women and babies.
Sometimes we went to a small camp eight
kilometers away from Madhu. We worked from
morning till night.

Malaria, asthma, (3)pneumonia—these diseases
were the most (4)common. Poor food and water were
also serious problems. When the rainy season

Lesson 4—Section 2

(1) yet ϕ and [but] yet, p. 2207.

and [but] yet* それでも、しかし (P コーバ) and yet の方が普通) ▶ I offered them still more, **and yet** they were not satisfied. 私はそれ以上出すと言ったが、彼らは満足しなかった。

- 成句義や用例の訳を参考にして、教科書のこの部分が「マドゥーには 28,000 人の難民がいたが、小さな病院が 1 つしかなかった」という意味になることを確かめさせる。
- 成句見出しで [] が使われているが、これは置き換え可能な要素を示しているので、**but yet** という形もあることに注意させる。成句義の後にある (and yet の方が普通) という注記から、実際に使用される形としては **and yet** の方が普通であることを確認させる。

(2) equipment v 1, p. 638.

e·quip·ment* /ɪkwɪpmənt/ [equip (備える) ment (こと); →equip]

— 図 (s /-ts/) 1 [[集合的に] «…のための» 装置, 装備, 器材, 機器, 備品 «for» (数えるときは a piece of ~; 具体的には a tool) ▶ office [sports, kitchen] equipment 事務[スポーツ, 台所]用品/video equipment ビデオ装置/electronic equipment 電子機器。

- Y の表示や語義 1 の [集合的に] という用法指示から、教科書本文では 1 つの機器というのではなく、「(全般として)最も簡単な医療機器しかなかった」という意味になることを確認させる。
- 機器の数をいう場合は! の注記のように a piece of ~ を用いることをチェックさせる。

(3) pneumonia v, p. 1459.

pneu·mo·ni·a* /njuːmʊniə/ (語頭 pneu- の p は発音しない) 図 図 【医】肺炎 ▶ acute pneumonia 急性肺炎。

- 見出し語・発音記号の横にある (語頭 pneu- の p は発音しない) という注記を確認させる。
- [] で囲まれた表示は専門分野を示していることを確認させ、【医】は医学用語(教科書本文では病名)であることをチェックさせる。

(4) common α 1, p. 383.

com·mon* /kɑː(ː)mən|kɒm-/
[com (共に) mon (義務を負わされた)]

— 図 (more ~; most ~/(まれ) ~er; ~est)

1 普通の; «…の間で» よくある, ありふれた «among» (↔ uncommon, rare¹); **[it is common (for A) to do]** (A (人) が) …するのはよくあることだ (P コーバ) it is common that ... (…ということはよくあることだ) の構文は《非標準》▶ a common event [sight] 普通の出来事[よく見る光景]/a flower common in English fields 英国の野によく見かける草花/a common occurrence よくあること/Refrigerators became common among the public in 1960s. 冷蔵庫は 1960 年代に一般に普及した/It is quite common for girls to play soccer in Shizuoka. 静岡では女の子がサッカーするのは全然珍しいことではない。

類義 common と usual, normal, ordinary

common は多くの人々の間や多方面で見られるので、ありふれていて「普通」であること。usual はある状況や展開が高い頻度で起こるので、いつものように「普通」であることをいう。従って特定の個人などについて common を用いることはできない ▶ as is usual [× common] with him 彼にはよくあることだが。

normal は平均・基準から逸脱せず、予想通りに「普通」であること。ordinary は他と代わり映えせず、特別ではなく「普通」であること (↓ 構文チャート)。

- α の表示の後に 2 種類の比較変化が記されているが、「{まれ} ~er; ~est」の部分に注意させる。通例は教科書本文のように more ~, most ~ を用い、~er, ~est はあまり使われないことを確かめさせる。
- 語義 1 の意味をチェックさせて、教科書本文が「これらの病気がいちばん多いものだった」と言っていることを確認させる。また、common と同様「普通である」の意味を持つ様々な語の意味合いの違いを説明した P コラムを参照させ、教科書本文では、「これらの病気が多く見られ、ありふれているので、普通のことだった」と述べていることを理解させる。
- 辞書ページ下部の **構文チャート** では、類義語によって取る文型に違いがあることが示されているので、P コラムと併せチェックさせるとよい。

構文チャート	common	usual	normal	ordinary
it is ~ (for A) to do	○	○	○	(まれ)
it is ~ that ...	《非標準》	(まれ)	《比較的まれ》	(まれ)
it is ~ that A should do			○	

Crown English Communication II, p. 53.

came in October, diarrhea increased and we lost some of our children. We treated everyone who came to us, even soldiers carrying ⁽¹⁾weapons, but only after they ⁽²⁾put their weapons away.

We were told we would be safe. However, there were times when we were ordered not to go out at night. We listened to the radio to ⁽³⁾find out whether it was safe to go outside or not.

(1) weapon v 1, p. 2131.

weapon ^{*} /wép(ə)n/ ([!] -ea- は /e/)
[—] 図 ([Ⓢ] ~s /-z/) ㊦ 1 武器, 兵器, 凶器: (動植物の) 攻撃[防御]器官 (爪・角・とげなど) ▶ nuclear [chemical, biological] *weapons* 核[化学, 生物]兵器/*weapons of mass destruction* 大量破壊兵器 (略) WMD/carry a *weapon* 武器を携帯する/a *murder weapon* 凶器/a *lethal* [deadly] *weapon* 殺傷兵器.

- ・ 見出し語・発音記号の横にある(!-ea-は/e/)という注記を確認させる。
- ・ 語義 1 の第 3 用例が教科書本文と同じ carry を使っているので参照させて、ここでは「武器を持っている兵士」という意味になることを確かめさせる。名詞を辞書で引く時には、意味を調べるだけでなく、共に使う動詞とのコロケーションを意識させるとよい。

(2) put ㊦ put A away [away A], p. 1529.

put A away [away A] ^{*} (1) A 〈物〉をしまう, 片付ける ([!] しはしば受け身で) ▶ put the winter clothes away 冬服をしまう. (2) A 〈金〉を(定期的に)蓄える (save). (3) 〈く〉だけで・主に話 A 〈(驚くほどの量の)飲食物〉を平らげる, 飲み干す. (4) 〈主に英〉 A 〈考え・心配など〉を捨てる. (5) 〈米〉 A 〈老齢や病気の動物〉を(薬などで)死なせる ([!] しはしば受け身で). (6) 〈くだけで〉 A 〈人〉を刑務所[精神病院]に入れる. (7) 〈古〉 A 〈人〉と離縁する. (8) 〈くだけで・やや古〉 A 〈人〉を殺す (kill). (9) 〈英〉 〈ボール〉をゴールに入れて得点する. (10) 〈米〉 〈試合で敵〉を打ち破る.

- ・ 成句見出しには put A away [away A] と記されていることに注意させる。A には目的語となる名詞(句)が来るが, [] で囲まれた部分は置き換え可能であることを意味しているので, 目的語は away の前の場合も後の場合もあることを確認させる。
- ・ 山形かっこ 〈 〉 には A に来ることの多い要素に関する情報(選択制限)が示されているので, 成句義(1)から(10)の選択制限をチェックさせる。教科書本文の文脈から, (1)の「〈物〉をしまう, 片づける」がもっともふさわしいことを確認させ、ここでは「彼らが武器をしまった後で(診察した)」という意味になることを理解させる。

(3) find ㊦ find out, p. 714.

find out ^{*} ([!] 偶然と努力のいずれの結果の意味でも用いられる) (→ continue 語源) (1) **find out (about A)** (A 〈人・物・事〉について) 情報を見いだす, 知る ▶ He'd been drinking under age and didn't want his parents to find out (about it). 彼は未成年で飲酒していたが(それを)両親に知られたくはなかった. (2) **find out wh 節・句** …か(どうか)を調べる, 見つけ出す, 探り出す ▶ Linguists want to find out how language works. 言語学者は言葉がいかに機能するのを探りたいと思っている/Researchers are trying to find out if there's a connection between the two. 研究者たちは両者の間につながりがあるかどうか突き止めようとしている. (3) **find out (that) 節** …ということがわかる [を知る] ▶ Later I found out I was wrong. 後になって私は自分が間違っていることがわかった. (4) **find out A about B** B 〈人・事〉について調べる, 知る ([!] A は more, something, anything, a lot など) ▶ If you want to find out more about the University, visit our website. 大学についてもっと知りたければホームページにアクセスしてください.

- ・ **I** に { } を使った文型表示があるので参考にして, どの成句義がふさわしいかをチェックさせたい。教科書本文では find out に whether 節が続いていることから {find out wh 節・句} と記されている(2)になることを確かめさせる。
- ・ 成句見出しのすぐ後にある「(!偶然と努力のいずれの結果の意味でも用いられる)」という説明をチェックさせる。教科書本文では目的を表す to 不定詞として使われていることを確かめさせ、ここでは偶然ではなく、「外へ出ることが安全かどうかを知るためにラジオを聞いた; ラジオを聞いて外に出ても大丈夫かどうか知ろうとした」と言っていることを理解させる。

Crown English Communication II, p. 54.

—3

The most difficult thing about our work at Madhu was making decisions. We had to think about the local situation, because looking at the situation through Western or Japanese ⁽¹⁾eyes could lead us to make wrong decisions. Since our medicines as ⁽²⁾well as our medical equipment were very limited, we had to look at each situation as it happened and choose the best thing to do.

I clearly remember the day when a woman brought her five-year-old boy to our hospital. I saw ⁽³⁾immediately that he was beyond help. We gave him oxygen, but he was pale, his breathing was difficult, and the oxygen mask made him ⁽⁴⁾uncomfortable. He was not improving. We were

Lesson 4—Section 3

(1) eye v 6, p. 674.

5 [[an ~]] «…に対する」**判断能力**, 見分ける力, 鑑識力
 «for» ▶have a good eye for color 色彩感覚が優れている/Nancy has an eye for old china. ナンシーには古陶器の鑑識眼がある/read the manuscript with a critical eye 原稿を批判的に読む。

6 □ [[しばしば~s]] **判断, 意見** ▶in the eyes of the law [world] 法[世間]の判断では/to [in] my eyes 《話》私の意見では(≡in my opinion)/see things through one's eyes 自らの観点から物事を理解する。

- 用法指示で[しばしば~s]と複数形でよく使われると記されていること, 第3用例で教科書本文と同じ **through** が使われていることから語義6に導く。第3用例を参考に, ここでは「西洋の, または日本の目[観点]で状況を見る[判断すること]」という意味になることを確認させる。
- この語義6では「目」を「判断・意見=目を通して状況を捉えること」というメタファーとして使っていることを理解させ, 同じく「目」を「判断能力=見る目があること」というメタファーとして使っている語義5を参照させるのもよい。英語と日本語のメタファーの共通点を発見させて, 言葉の意味に対して興味を深めさせることができる。

(2) well φI as well as ..., p. 2137.

as well as ... * [[A as well as B]] BはもちろんAも, BだけでなくAも (■「AだけでなくBも」と訳した方が適切な場合もある); [[as well as doing]] …するのに加えて (→in ADDITION to) ▶He makes homemade beer as well as wine. 彼はワインだけでなく自家製ビールも造っている/As well as being a comedian, he is a good essayist. 彼はコメディアンであるだけでなくすぐれたエッセイストでもある。

語法 (1) AとBは文法的に同等な語句が用いられる ▶I got presents from Tom as well as from Ben. ベンだけでなくトムからもプレゼントをもらった。
 (2) A as well as Bを主語とする場合, 動の人称・数はAに一致する (→NOT only A but (also) B) ▶John as well as his brothers is responsible for the accident. 彼の兄弟だけでなくジョンにも事故の責任がある。

- よく使われる成句であり, 用法を調べさせたい。用法指示[A as well as B]の部分から, 2つの要素を結びつける表現であることを確認させる。
- **u(1)**にはどのような語句を結びつけるのか説明されているので参照させる。教科書本文では「私たちの医薬品(our medicines)」 「私たちの医療機器(our medical equipment)」という2つの名詞句が結ばれていることを確かめさせる。
- **u(2)**には, この句が主語になった場合の人称の一致について書かれているのでチェックさせる。辞書の用例や, 教科書本文でA(前の名詞句)に動詞が一致していることを確かめさせ, ここでは「私たちの医療機器だけでなく私たちの医薬品も非常に制限されていた」という意味になることを理解させる。

(3) immediately φ 1, p. 973.

im·me·di·ate·ly ^{*} /ɪmiːdiətli, -dʒət-/
(**im**-e- は /i:/; -ate は /ət/)

[→immediate]

【(比較なし)】1 直ちに、即座に、すぐに (at once) ▶almost *immediately* はほとんど同時に/If you do so, let me know *immediately*. そうするなら直ちに知らせてください/It was *immediately* apparent where Tom had gone. トムがどこに行ったかはすぐにわかった/lie down *immediately* after eating 食後すぐ横になる。

- ・ 見出し語・発音記号の横にある(!-e-は/i:/; -ate は/ət/)という注記を確認させる。
- ・ 教科書本文では see (わかる, 理解する) という動詞を修飾していることから語義 1 に導く。
- ・ 「直ちに、即座に、すぐに」という語義の後に (at once) と記されていることに注意させる。訳語に続いて同義語[表現]がある場合は、() に入れて示されていることを確認させる。

(4) uncomfortable α 2, p. 2053.

un·com·fort·a·ble ^{*} /ʌŋkɑmfətəb(ə)l,
(**un**)-fərtəb(ə)l/

[un (否定) comfortable (快適な)]

【形 (more ~; most ~)】1 〈物・場所などが〉心地よくない、不快に感じさせる、しっくりこない; 〈事が〉気詰まりするような、気まずい ▶uncomfortable shoes はき心地の悪い靴/an uncomfortable silence 気まずい沈黙。

2 〔通例 be ~〕〈人が〉心地よく感じない、不快な; «…に対して/…するのに» 落ち着かない、不安な «with, about/doing» ▶I felt quite uncomfortable talking in public. 人前で話すのはすごく落ち着かなかった。3 〈事態・事柄などが〉やっかいな、面倒な。~ness 図 〇 心地悪さ。

un·com·fort·a·bly 図 〇 居心地悪く、落ち着かずに。

- ・ 見出し語・発音記号の横に () を使って示された(un(否定)comfortable(快適な))という語源情報に注意させる。同ページに「un(否定)」という接頭辞から始まる他の単語の例がたくさんあり、参照させることで知識の定着が見込まれる。特に 3 つ下の見出し語である uncommon は、教科書 p. 52 に common が出て来るので、その否定語としてチェックさせるとよい。

un·com·mon ^{*} /ʌŋkɑ(:)mən| -kɑm-/ 図 (more ~; most ~) 1 «人などに» まれな、めったにない、普通ではない (rare) «among, for» ▶a practice uncommon among the Japanese 日本人にはあまり見られない習慣/It is not uncommon for the elderly to suffer from forgetfulness. 高齢者が健忘症になるのは珍しいことではない。2 〔かたく/文〕〔図の前で〕 (程度・量などが) 並外れた、著しい (→remarkable). ~ness 図 〇

- ・ 語義 2 の「〈人が〉心地よく感じない、不快な」と記されている部分に注意させる。教科書本文では使役動詞の make が使われているので、「酸素マスクは彼を不快にさせた」という意味になることを確かめさせる。

Crown English Communication II, p. 55.

using our last tank of oxygen. We didn't know when the next tank was coming. If another person needing oxygen arrived, maybe this tank could save his or her life. I made my decision and made a sign to the nurse who was working with me to ⁽¹⁾turn off the oxygen. The nurse ⁽²⁾simply couldn't do it. I waited five ⁽³⁾seconds and then turned it off myself. I did it because I thought it best to leave the child in the hands of God. Was that the right decision? I still don't know.

(1) turn ㊦ turn A off [off A], p. 2041.

turn A off [ɔff A]・(1) A〈電気・ガス・エアコンなど〉を止める, 消す, 切る (switch A off) (↔turn A on); (まれ) [[~ oneself off]] 〈電気・機械などが止まる, 消える〉▶turn off the television テレビを消す。(2) 〈〈くだけた話〉A〈人〉を飽きさせる, 無関心にさせる, うんざりさせる。(3) 〈〈くだけた話〉〈物・事〉A〈人〉の性的関心をなくす (↔turn A on)。(4) (英) A〈使用人など〉をクビにする。

- ・ turn と off の組み合わせによる成句は辞書には4つあるので, どれになるかをチェックさせる。教科書本文には turn off the oxygen と目的語があること, 同ページ25行目には turned it off と turn と off に目的語が挟まれた表現が出て来ることから turn A off [off A] を参照させる。
- ・ 成句義4つのうち, 教科書のこの部分が酸素(タンク)の話をしていることから, 山形かっこに入れて示された典型的な目的語(選択制限)が「〈電気・ガス・エアコンなど〉」と記された(1)に該当することを理解させ, ここでは「酸素を止める」という意味になることを確かめさせる。
- ・ 辞書用例では turn off the television と off (ここでは副詞)の後に目的語があり, 教科書本文も同じく off の後に the oxygen が来ているが, 同ページ25行目は代名詞(it)となって turn と off の間に挟まれていることに注意させる。他動詞用法の句動詞では, 目的語に代名詞が来ると副詞の前で使われることに触れるとよい。
- ・ 「〈電気・ガス・エアコンなど〉をつける」を意味する turn A on [on A] が同ページ右上にあるのでチェックさせる。

turn A on [ɔn A]・(1) A〈電気・ガス・エアコンなど〉をつける, 出す (switch A on) (↔turn A off) ▶turn on the TV [lights] テレビ[照明]をつける。(2) 〈〈くだけて〉A〈人〉をわくわくさせる; (特に性的に)興奮させる, むらむらさせる (↔turn A off) ▶Italian food has never turned me on. イタリア料理にひかれたことは一度もないね/Whatever turns you on! 〈〈くだけて・俗・おどけて〉そういうことが好きな人もいるけどね (㊦自分はずっと関心がないことを暗示)。(3) 〈〈くだけて〉(突然)Aを見せる[示す] ▶turn on the charm (欲しい物があって)突然いい子ぶる/turn on a smile 作り笑いをする。(4) (話) A〈人〉を(麻薬などで)うっとりさせる, Aに幻覚症状を起こさせる。

(2) simply ㊦, p. 1756.

sim·ply /sɪmpli/ [→simple]

―― ㊦ (more ~; most ~/3, 4, 6 は比較なし)

1 単純に, 自然に, あっさりと ▶Why didn't he simply ask her to tell him the truth? なぜ彼はあっさりと彼女に真相を教えてくれと聞かなかったのだろう。
2 平易に, わかりやすく ▶to put it simply 簡単に言えば/It is simply that 単に...と言うことだ。
3 [[節・句を修飾して]] ただ単に (only) ▶I did it simply because I wanted to. 単にやってみたかったので, やった/It's simply that 単に...ということだ。4 [[形]などを強調して]] 非常に, まったく, 本当に; [[~ ... not]] とでも[全然]...ない ▶I am simply too busy to read any books. まったく忙しくて本も読めない/I simply can't believe it. 私にはとてもそれが信じられない (㊦not ... simply は「単に...だけではない」の意味)。
5 質素に, 地味に, ありのままに ▶live simply 質素な生活をする/be simply dressed 地味な服装をしている。
6 [[文修飾]] 率直に言って ▶Quite simply, it's the best way to do it. はっきり言ってそれが一番いい方法だ (㊦後続する内容を強調する; →actually (読解のポイント))。

- ・ 教科書本文では simply couldn't do it と否定が続いていることから, 語義4の [~ ... not] という用法指示がある部分を参照させる。
- ・ 辞書の第2用例と教科書本文を比べ, 「その看護師はとてもそんなこと (=酸素を止めること) はできなかった」という意味になることを確かめさせる。
- ・ 第2用例の最後に (㊦not ... simply は「単に...だけではない」の意味) という注記があるのでチェックさせる。simply と not の位置関係で意味が変わることに注意させる。

(3) second² v 1, p. 1688.

sec·ond² /sɛk(ə)nd/ [語源は「分の次に来る下位区分」]

―― ㊦ (㊦ ~s /-dz/) ㊦ 1 (時間・角度の単位の) 秒 ((略) sec., s.; (記号) ") ▶Microwave the chicken for 50 seconds. (レシピ) 鶏肉を電子レンジに50秒かけます/It will take about 30 seconds to get the fax through. そのファックスを送るのに30秒ほどかかります/10 degrees, 8 minutes, (and) 20 seconds (角度の) 10度8分20秒 (㊦10° 8'20"の読み方)。

- ・ second は同じ綴りで語源の違う語があるので, second¹, second² と見出し語の右上に番号を付けて別の見出し語として立項されていることを確認させる。見出し語・発音記号の横に () で示された語源情報があるので, その違いをチェックさせる。

sec·ond¹ /sɛk(ə)nd/ [語源は「順序が次に来る」; → first (読解)] ((形) secondary)

―― ㊦ (比較なし) 1 a [[通例 the ~]] 第2の, 2番目の, 2度目の ((略) 2nd) ▶This is the second time I've visited.

- ・ 教科書本文では waited という動詞と数字に続いて用いられていることから「5秒待った」となり, 「秒」を意味する second² の語義1であることを理解させる。

Crown English Communication II, p. 56.

—4

My six months in Madhu passed quickly, but they were very important to me as they gave true meaning to my life and work.

The work of NGOs like MSF is helping to solve many of the world's problems, but there is so much more to do. It is my hope that many more Japanese will ⁽¹⁾volunteer for such work, ⁽²⁾go and see more of the world, and begin to have a ⁽³⁾sense of compassion for people who need help. Such volunteers will find that they get as much as they give. In my own case, the experience not only gave ⁽⁴⁾direction to my life but also gave me an opportunity to think about what it is to live as a human being. I plan to join MSF again and continue working with them until MSF is no longer necessary. There are still countless sick and injured people all over the world.

Lesson 4—Section 4

(1) volunteer ㊦ 1, p. 2107.

vol-un-teeer /və(:)ləntɪər/vəl-/
(㊦強勢は第3音節)

[原義は「志願兵」; →voluntary]

㊦ (㊦) ~s /-z/) ㊦ 1 «…する/…の» ボランティア, 奉仕者; 志願者, 有志 «to do/for» ▶volunteers to help children with disabilities 障害をもつ子供の手伝いをするボランティア/I need someone to clean the room. Any volunteers? 誰かに部屋を掃除してほしいのですが, やってくれる人はいませんか. 2 志願兵, 義勇兵. 3 [[形容詞的に]] a ボランティアの; 志願の, 自発的な; 志願兵の ▶do volunteer work ボランティア活動をする. b [[植]] 自生の. 4 [[法]] 任意行為者; (財産などの)無償譲渡人. 5 [[植]] 自生植物.

㊦ (㊦) ~s /-z/; ~ed /-d/; ~ing /-tɪərɪŋ/)

㊦ 1 [[~ to do]] 進んで…する; «…を» 自ら進んでする, 買って出る «for»; ボランティアに従事する ▶volunteer to wash dishes 自ら進んで皿を洗う/volunteer at the nursing home 老人ホームでボランティアをする. 2 «…に/…として» 志願する «for/as»; 志願兵になる ▶volunteer for the Navy 海軍に志願する.

- ・ 助動詞 will に続いて用いられているので動詞であり, 前置詞 for が続いているので自動詞の用法を探させる。語義 1 も語義 2 も for を取ることが二重山形かつ<…>を使って示されているが, for 以下が「何かになること」ではなく「そのような仕事をする」ことなので, 語義 1 の「<…を>自ら進んでする, 買って出る<for>」の方になることを確認させる。
- ・ 教科書同ページの 11 行目には名詞の volunteer が出ているので調べさせる。v 語義 1 の「ボランティア, 奉仕者; 志願者, 有志」という意味を参照させて, 「ボランティア」は「人」を意味する名詞で「(ボランティア)活動」ではないことに注意させる。v 語義 3 には「ボランティア活動をする(do volunteer work)」という用例が出ているので同時にチェックさせるとよい。

(2) go ㊦ 5, p. 821.

5 [話] a [[go and do/《主に米話》go do]] (目的を表して)…しに行く (㊦go to do よりもくだけた言い方; go do は go and do から and が落ちた形でさらにくだけた言い方) ▶Why not go (and) see Elizabeth? エリザベスに会いに行ったらどうだい (㊦日本語では「行く」でも, 聞き手の方に近う場合は come を用いる: Can I come [×go] and see you? あなたに会いに行ってもいいですか)/Go (and) get [do] it. (さっさと)それを取りに[[し]]行ってきなさい (㊦命令文で to 不定詞を使うのは避けられる; Go to get [do] it. は不自然)/I'll go (and) have a look. 見に行ってみよう/I have to go get ready. 用意をしに行かなければならない (㊦㊦)この場合 go and get ready より普通 /have gone and done ↓成句 /I went and had lunch with him. 彼と昼食をとりに行った/[feel like [be busy] going and looking for a job 仕事を探しに[[行きたい気がする]]行くのに忙しい].

語法 (1) ㊦㊦ do に現れる主な動 see, get, do, have, find, look, live, play, buy, be, watch, work, give, make, talk, take, try, visit, meet, fetch, eat, stand, check, leave, tell, ask, sit, stay, put, throw, say, lie down.

(2) 主語 話し手以外について用いると話し手が怒っていることを暗示する。

(3) “went and + 過去形” は結果を表すことがある ▶I went and got my camera. 私は行って自分のカメラを受け取った。

- ・ 語義が多い基本語のため, 文型から正しい語義に導きたい。文型表示{go and do/{主に米話}go do}が教科書本文の go and see と合っていることから語義 5 を参照させる。語義と!の前半の注記から, 目的を表す不定詞を使った go to do のくだけた表現であることを確かめさせる。
- ・ スラッシュ(/)で区切られた文型表示の後半と!の後半の注記から, 主にアメリカの話し言葉では and を省略することもあることを確認させる。
- ・ 辞書の第1用例が go and see と教科書本文と同じ形を使っているのでチェックさせる。辞書用例では(and)と()で囲まれているので and は省略されることもあること, また辞書の方は人が目的語(go and see Elizabeth)なので「会いに行く」だが, 教科書の目的語は more of the world なので「世界のもっと多くの事を見に行く; より広く世界を見に行く」となることを確かめさせる。
- ・ 後段の㊦コラム(1)では, go (and) do の do に表れる代表的な動詞が挙げてある。教科書の see は太字になっており, 「特によく用いられる」ことを確認させたい。様々な動詞をチェックさせ, 自然な英語表現の幅を広げておくのもよい。

(3) sense v 2, p. 1703.

2 ㊦ 〔通例単数形で〕「…という」(漠然とした)感覚, 感じ (sensation); 意識, 心持ち, 気持ち (feeling) «that 節» (↓表現) ▶I had [got] the sense that she kept something from me. 彼女は何か隠し事をしているような気がした (㊦ ㊦) the は a のこともある / have a strong sense of self 自己意識が強い / There was a sense of relief from doing that. そうすることで安心感があつた / give people a sense of community (事が)人々に共同体意識を与える / lull users into a false sense of security ユーザをだまして安心させる[誤った安心感を与える] / have [feel] a strong sense of purpose 強い目的意識を持つ[感じる].

- カタカナ語でもあるので注意して調べさせたい。of 以降に「深い同情・哀れみ(compassion)」という感情・意識を表す名詞が来ているので、語義 2 がふさわしいことを確認させる。
- 辞書の第 1, 2, 6 用例が動詞 have とのコロケーションで「…な感じ[気持ち]を持つ[になる]」という意味になっていることをチェックさせ、教科書本文が「深い同情心を持ち始める」と言っていることを確認させる。
- 語義 3 を含めて a /one's/the sense of ... というチャンクは英語には数多くあり、㊦ コラムにリストされているのでチェックさせるとよい。

3 ㊦ 〔時に a ~〕(生まれながらの)感じる[知る, わかる, 判別する]力, 心, 感覚, センス (↓表現) ; →taste ㊦ 2) ▶have a sense of humor ユーモアのセンスがある / She has a clear sense of what is right and wrong. 彼女には事の良し悪しをはっきり区別できる力がある / I don't think much of your dress [clothes] sense. 君の服装のセンスは大したことはないね / the moral [religious] sense 道徳[宗教]心 / keep a [lose all] sense of proportion 分別を保つ[まったく失う] / lose one's sense of balance 平衡感覚を失う。

表現 ㊦ ㊦ a /one's/the sense of ...

▶a ~ of loss [urgency] 喪失[緊迫]感 / a ~ of pride 誇らしい気持ち / a ~ of wonder «…についての」好奇心 «about» / a ~ of freedom [satisfaction, achievement] 開放[満足, 達成]感 / a ~ of guilt [justice] 罪悪[正義]感 / a ~ of belonging «…への」帰属意識 «to» / a ~ of shame 恥ずかしい気持ち / a ~ of having done well うまくやったという気持ち / a deep ~ of gratitude 深い感謝の気持ち / a ~ of helplessness 無力感 / a ~ of warmth [pain] 暖かい[痛い]感じ / a ~ of responsibility 責任感 / a ~ of place 土地勘 / a ~ of style 趣味の良さ / a ~ of time 時間の感覚 / a ~ of perspective 遠近感; 大局観 / a ~ of identity 自己認識 / a ~ of history 歴史意識 / a ~ of irony 皮肉を解する力 / a ~ of fun 遊び心 / a ~ of duty 義務感 / a ~ of reality 現実感 / a ~ of occasion 状況を正確に見抜く力; 重要な行事であるという感覚 [認識] / a ~ of direction ↓複合語。

(4) direction v 1b, p. 529.

b (行動・政策などの)方向(性), 方針, 傾向; (人生などの)目的; 指針 ▶Things are moving [heading, going] in the right direction. 事態はあるべき[望ましい]方向に進んでいる / take a new direction 新しい方針をとる / lack a clear sense of direction 明確な指針を欠く。

- 語義の補足説明として()が使われることがあるので、その部分もチェックすると正しい語義を見つけやすいことを教えたい。語義 1b の中に「(人生などの)目的; 指針」という訳語がついていることを確かめさせる。教科書本文が「私の人生に目的[進むべき方向性]を与えた(gave direction to my life)」と考えると文脈に合うことを確認させる。
- 辞書の第 3 用例が(3)でチェックさせた a sense of ...を使った「明確な指針[方向性](a clear sense of direction)」になっているので、意味や用法を再確認させるのもよい。

Crown English Communication II, p. 57.

Crossing the border takes courage—your family and friends may object—but if it seems to you the right thing to do, follow your ⁽¹⁾heart. You might find yourself in the minority, but have confidence in yourself and have the courage to put your beliefs into ⁽²⁾action.

(1) heart v 2, p. 903.

2㉔ (感情の宿る) 心; 感情, 心情; 気持ち, 気分 ▶She has a **good** [warm] **heart**. 彼女は優しい[暖かい]心の持ち主だ/My **heart** sank when I heard the news. その知らせを聞いてがっかりした[気持ちが真っ暗になった]/with a **heavy** [light] **heart** 悲しみに心が沈んで[喜びに心を弾ませて]/Her performance **won** [captured] **the hearts of** the audience. 彼女の演技は観客の心をとらえた/I knew it (deep) in my **heart**. 内心ではわかっていた/Follow your **heart**. 自分の気持ちに従いなさい/a woman with a **heart** of gold [stone] 美しい[冷酷な]心を持った女性/His **heart** was filled with joy [sadness]. 彼の心は喜び[悲しみ]でいっぱいだった。

- ・ 語義2の第6用例が教科書本文と同じチャックなので、意味をチェックさせる。ここでは「自分の気持ちに従いなさい; 自分の思うようにやりなさい」と言っていることを確認させる。
- ・ 「心; 感情; 気持ち」を表す **heart** が他の類語とどのように違うのかがPコラムに説明されているので、確認させるとよい。

類義 heart と mind, spirit, soul

heart は喜怒哀楽等の強い感情を抱く場所としての心で、身振りの際はしばしば心臓の位置をさす。mind は思考・理性・精神の存在場所としての心をつい、身振りの際はしばしば頭をさす。spirit は肉体に対する心・気性・精神をつい、気持ちの浮き沈みや死後に肉体を離れた魂・霊魂なども表す。soul は肉体・理知に対して本当の気持ち・感情が宿る心の中を表し、生きている間も死後も持っていると考えられている魂・霊魂も表す。

(2) action v I put A into action, p. 23.

put A into action A (考え・計画など)を実行に移す。

- ・ 成句を調べる場合、名詞が含まれている場合は原則的に名詞の方で立項されているので、**action** の成句をチェックさせる。
- ・ 意味をチェックさせて、教科書本文ではAが「(あなたの)信念(your beliefs)」であることを確かめ、「信念を実行に移す」という意味になることを理解させる。